

事業者排出量削減計画書

|   |   |   |                 |                 |                 |                 |              |
|---|---|---|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|--------------|
| (宛先) 京都府知事  |   | <input checked="" type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 変更  |                 |                 |                 |                 |              |
| 住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）<br>東京都港区虎ノ門四丁目1番1号<br>神谷町トラストタワー |   | 氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）<br>日本たばこ産業株式会社<br>代表取締役社長 寺島 正道<br>電話番号：03-6636-2914   |                 |                 |                 |                 |              |
| 主たる業種   | たばこ製造業（葉たばこ処理業を除く）  | 細分類番号   | 1 0 5 1         |                 |                 |                 |              |
| 事業者の区分  | 京都府地球温暖化対策条例施行規則  | <input checked="" type="checkbox"/> 第12条第1項第1号<br><input type="checkbox"/> 第12条第1項第2号又は第3号<br><input type="checkbox"/> 第12条第1項第4号 |                 |                 |                 |                 |              |
| 計画期間  | 令和5年4月から令和8年3月まで  |   |                 |                 |                 |                 |              |
| 基本方針  | 2030年にCO2排出量47%減(2019年度より)、再生可能エネルギー使用率50%<br>2050年にCO2排出量ゼロ、再生可能エネルギー使用率100%   |   |                 |                 |                 |                 |              |
| 計画を推進するための体制  | サステナビリティマネジメント担当が「環境管理統括者」として環境マネジメントを統括し、また各部門長が「環境管理責任者」として所管部門およびグループ会社における環境マネジメントを推進することで、グループ全体が一丸となって取り組む体制を構築している。                              |   |                 |                 |                 |                 |              |
| 温室効果ガスの排出の実績及び削減の目標                                     | 温室効果ガスの排出の量   | 基準年度<br>(令和2～4年度)   | 第1年度<br>(令和5年度) | 第2年度<br>(令和6年度) | 第3年度<br>(令和7年度) | 増減率             |              |
|   | 事業活動に伴う排出の量   | 17,334.6 トン   | 15,028.4 トン     | 4,446.2 トン      | 4,456.6 トン      | -54.0 パーセント     |              |
|   | 評価の対象となる排出の量  | 19,661.4 トン   | 15,028.4 トン     | 4,446.2 トン      | 4,456.6 トン      | -59.4 パーセント     |              |
| 目標の根拠   |   | 生産性向上と省エネにより、使用量減少。<br>使用電力のグリーン電力化+太陽光発電の導入により、温室効果ガスの排出量低減をする。  |                 |                 |                 |                 |              |
| 原単位当たりの温室効果ガス排出量等                                       | 事業の用に供する建築物の用途  | 原単位の指標  | 基準年度<br>(令和4年度) | 第1年度<br>(令和5年度) | 第2年度<br>(令和6年度) | 第3年度<br>(令和7年度) | 増減率          |
|   | 工場  | 事業活動に伴う排出の量<br>(生産数量：千万本)   | 7.75            | 5.92            | 1.72            | 1.68            | -59.91 パーセント |
|   |   | 事業活動に伴う排出の量<br>( )  |                 |                 |                 |                 | パーセント        |
| 原単位の指標及び目標の根拠   |   | 2030年にCO2排出量47%減(2019年度より)の目標に対して、生産数量増減影響も加味した削減を行う。   |                 |                 |                 |                 |              |
| 重点的に実施する取組の実施計画   |   | 基準年度<br>(令和4年度)   | 第1年度<br>(令和5年度) | 第2年度<br>(令和6年度) | 第3年度<br>(令和7年度) | 備考              |              |
|   |   | 50 パーセント  | 50 パーセント        | 62 パーセント        | 62 パーセント        |                 |              |
| 具体的な取組及び措置の内容   | 令和5年度   | 生産性向上+固定エネルギー（空調、照明等）を省エネにより削減。+α   |                 |                 |                 |                 |              |
|   | 令和6年度   | 使用電力のグリーン電力化（令和6年1月～）+太陽光発電の導入（令和6年2月～）*オフサイトPPA  |                 |                 |                 |                 |              |
|   | 令和7年度   | 固定エネルギー（空調、照明等）を省エネにより、1%削減。+α（生産性向上等）  |                 |                 |                 |                 |              |
| 通勤における自己の自動車等を使用することを控えさせるために実施しようとする措置                 | 措置の内容   | 特段措置なし  |                 |                 |                 |                 |              |
|   | 上記の措置を採用する理由  | 工場は交替制勤務のため、通勤に公共交通機関が使用できない。<br>通勤距離2km未満については交通費の支給はせず、自転車・徒歩通勤を推進している。   |                 |                 |                 |                 |              |
| 森林の保全及び整備、再生可能エネルギーの利用その他の地球温暖化対策により削減する量               | 区 分   | 第1年度<br>(令和5年度)   | 第2年度<br>(令和6年度) | 第3年度<br>(令和7年度) | 備考              |                 |              |
|   | 森林の保全及び整備によるもの  | 0 トン  | 0 トン            | 0 トン            |                 |                 |              |
|   | 地域産木材の利用によるもの   | 0 トン  | 0 トン            | 0 トン            |                 |                 |              |
|   | 再生可能エネルギーを利用した電力又は熱の供給によるもの   | トン  | トン              | トン              |                 |                 |              |
|   | グリーン電力証書等の購入によるもの   | トン  | トン              | トン              |                 |                 |              |
|   | 温室効果ガス排出量の削減効果分又は温室効果ガスの吸収効果分の購入によるもの   | 0 トン  | 0 トン            | 0 トン            |                 |                 |              |
| 合 計   | 0.0 トン  | 0.0 トン  | 0.0 トン          |                 |                 |                 |              |
| 地球温暖化対策に資する社会貢献活動                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>国内外で植林/森林保全活動を実施し、国内では現在9か所の「JTの森」を展開し、森を育て守っていく活動を継続している。</li> <li>市民参加型の清掃活動「ひろえば街が好きになる運動」を展開している。</li> </ul> |   |                 |                 |                 |                 |              |
| 特記事項  | 特段特記事項なし  |   |                 |                 |                 |                 |              |

注 1 該当する口には、レ印を記入してください。特定事業者以外で自主参加される事業者の方は、レ印の記入は不要です。  
 2 「細分類番号」とは、統計法（平成19年法律第53号）第2条第9項に規定する統計基準である日本標準産業分類の細分類番号をいいます。  
 3 「基準年度」とは、計画期間の前年度又は計画期間の前の3年度の事業活動に伴う排出の量又は原単位の数値の平均をいいます。  
 4 「増減率」とは、基準年度と比較した計画期間の平均の増加又は減少の割合をいいます。  
 5 「重点的に実施する取組の実施計画」には、温室効果ガスの排出の量を削減するために重点的に実施する取組の実施率を地球温暖化対策指針で定める方法により算出して記入し、その算出の根拠となる資料を添付してください。